

# 「こころのキャッチボール」

—自分も大切、相手も大切—



親業インストラクター

田代 恵美戸 (たしろ えみこ)

●プロフィール

1959年佐賀県生まれ。七人家族。ネコ五匹と暮らしている。塾をしていて、「叩いて躰けるのが親の愛情よ」と言う保護者との出会いから、親と子の関わりについて深く考えていたとき「親業」と出会い、インストラクターになる。その後、娘の不登校を体験。「一人でもいい。理解し、受け入れる人がいる事が力強い心の支えとなり、立ち上がる元気や勇気がでてくるのだ」と実感する。心と心の通いあうコミュニケーションの方法を幅広い人達に伝えていきたいと、講座・講演の活動にたずさわっている。

診療室のユニットの上で、男の子が泣いています。う蝕治療のために局所麻酔をしなくてはならないのです。そんな時、あなたはどの声をかけますか？

「がんばって！すぐ終わるから！」

でも泣き止みません。「おにいちゃんでしょ？ 弟は泣かずにやってるよ！」

定期診査のたびにブラッシング指導をしていますが、なかなかおかあさんが仕上げ磨きをやってくれません。「このままじゃ、むし歯になってしまいますよ。ちゃんと仕上げ磨きをやってあげてください」

「はい……」おかあさんは答えますが、次の定期診査でも同じことの繰り返し。

診療室でよく見かける風景です。こちらは患者さんのためを思ってやっているのですが、うまく相手に伝わらないことが多いようです。おにいちゃんだって、怖いものは怖い。おかあさんだって、仕上げ磨きをやった方がいいことはわかっている。では、どう声かけをしたらよいのでしょうか。

毎日の診療や指導の中で、相手に伝えること、相手を理解すること、これらは単なる言葉のやり取りではうまくいきません。こころのキャッチボールが大切なのです。そのコミュニケーションには技術が必要です。

今回は、親業訓練講座からこの技術を学びましょう。

※ 親業訓練講座とは……

多くの親は自分の親から伝えられた経験と、様々な情報・知識に揺れながら試行錯誤を繰り返しているのではないのでしょうか。この暗闇に手探りしている親たちに、ひとつの方向が示されるようになりました。それが親業訓練講座です。1962年、アメリカの臨床心理学者 トマス・ゴードン博士（1918～2002）によって始められた、親子関係を改善し、温かく健全な家庭を築き、子どものすこやかな成長を実現するためのトレーニングです。カウンセリング、学習・発達心理学、教育学など、行動科学の研究結果を基礎にしています。

参照：小児歯科臨床第7巻10～12号